

学校と地域の連携を促進する岐阜市「地域活動指導員」としての教員の意識に関する調査研究

松田雅裕¹⁾・益川浩一²⁾

¹⁾岐阜市立長森東小学校教諭

²⁾岐阜大学地域協学センター長・教授

要旨

学校と地域の連携を今まで以上に強めていくためには、連携の窓口となる学校側の担当者の役割が大きいと考える。岐阜市内の小中学校では、平成18年度より、校務分掌として「地域活動指導員」という役職が設けられており、地域住民との関わりも多く、連携強化に対する貢献が期待できる。しかし、経験年数が少ない教員が担当するなどの理由から、その役職による効果が十分に表れていないと推測する。そこで、その役職の活動の実態を明らかにするために、担当者へのアンケート調査を実施し、その結果の分析を行った。

キーワード

学校と地域の連携 地域活動指導員 教員の意識 互恵関係 ボトムアップ的な連携

1. 研究の目的

平成27年12月21日に、中央教育審議会より「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」が出され、学校には、これからの厳しい時代を生き抜く力を身に付けた子供たちを育成するため、「開かれた学校から一歩踏み出し、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子供たちを育む『地域とともにある学校』への転換」が求められた。この答申には、「地域の人的・物的資源の活用や社会教育との連携により、『社会に開かれた教育課程』を実現」するなど、学校と地域とのパートナーシップの構築による新しい時代の教育、地方創生の実現のために、学校側の総合窓口としての役割や学校運営協議会の運営業務等の調整、地域住民等による学校支援等の地域連携の企画・調整等を担う「地域連携担当教員(仮称)」の設置が謳われている¹⁾。

すでに、岡山県では、平成24年度から、全ての公立小中学校、県立学校に「地域連携担当」を、栃木県では、平成26年度から、県内の各公立学校に「地域連携教員」が校務分掌として位置付けられ、学校と地域との連携強化に努めているようであるが、本研究で着目するのは、平成18年度から、岐阜市の公立小中学校に校務分掌として位置づけられた「地域活動指導員」²⁾という役職である。

地域活動指導員が設置されて平成27年度で10年になるが、筆者は、その役職の活動内容等を示した実施要項に挙げられている活動が十分に行われていないと考える。その理由には、地域活動指導員に任命される教員の傾向として、比較的年齢が若く、教員としての経験年数が少ない教員が任命されるため、校内職員への発信力が弱く、児童・生徒の社会教育活動について正しい理解の普及を図ることが難しいのではないかと推測する。また、校内での役職に対する認知度が低かったり、土日等の活動も多いために担当者の多忙感や負担感もあつたりして、十分な活動がなされていないのではないだろうか。

しかし、一方で、地域住民と接する機会が多く、地域住民の率直な声を聞くことができる地域活動指導員は、学校運営協議会を柱とする制度として形が確立されたトップダウン的な連携とは異なり、日常的に地域住民と関わりをもちながら、ボトムアップ的な「顔が見える」連携構築に資することができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、学校と地域の互恵関係を構築する連携の在り方を探るために、岐阜市「地域活動指導員」の活動の実態を明らかにするとともに、その役職の課題や可能性について今後の提案につなげていくことを目的とする。そのために、地域活動指導員を担当する教員へのアンケート調査を行い、結果分析を行っていく。

2. 岐阜市「地域活動指導員」の意識に関する調査

(1) 調査方法

平成27年度第2回岐阜市地域活動指導員研修会の中で、研修会の主催者である岐阜市中央青少年会館の協力を得てアンケート調査票を配布し、活動状況等を調査した。研修会に代理の教員が出席していたり、校務等のため調査票を書き切れずに退席したりした教員に対しては、後日、市内メール便(岐阜市教委のポストを通じて、市内公立小中学校等に文書を送付するシステム)を用いて、返信してもらった。

(2) 調査対象

岐阜市内小中学校(岐阜大学教育学部附属小・中を含む)71校すべての地域活動指導員(複数名が担当の場合は代表1名)

(3) 調査期間

平成27年9月3日、4日の2日間

(4) アンケートの回収率

71校中、小学校は48校、中学校は23校である。そのうち、小学校は47校、中学校は22校、計69校から回答を得ることができた。計71名の地域活動指導員のうち、69名から回答を得られたことになる。

(5) 調査内容

調査内容の一つとして、各地域活動指導員の属性について調査した。調査項目は、「校種」、「性別」、「経験年数」、「年齢」、「担任かどうか」の五つである。回答者の属性は、表1のような結果となった。

表1 市内地域活動指導員の属性

校種		性別		経験年数				年齢				担任かどうか	
小	中	男性	女性	1~3	4~12	13~30	31以上	20代	30代	40代	50代	担任	以外
47	22	44	25	11	14	31	13	15	15	17	22	34	35

調査内容のもう一つとして、自由記述形式で、次のような四つの問いを設定した。自由記述形式にした意図は、回答の間口を狭めることなく、まずは幅広く回答を得たいとの考えがあつたことである。

- 【問1】地域活動指導員として、地域の活動に参加する前と、現在では、教師としての心構えや行動・指導の仕方に、何か変化はありましたか？

【問2】地域で子供たちが活動することや、地域の様々な年代の人々と関わることは、子供たちの人間形成にどのような影響があると思いますか？

【問3】学校と地域が今まで以上に連携していく上で、どのような利点や課題があると思いますか？

【問4】地域活動指導員としての仕事をしていく上で、課題に感じていることや困っていることを、率直にお書きください。

【問1】を設定した意図は、地域活動指導員として地域で活躍する子供の姿を見ることで、普段、学校で見ている様子とは異なる子供の姿を見ることができ、子供の見方が多面的になったり、子供たちが地域で活動することの意義を実感したりした教員が多いのではないかと仮説があり、この仮説が集計結果から裏付けできるのではないかと考えたことである。

【問2】を設定した意図は、地域活動指導員としての職務を通して、地域で子供たちが活動す

る姿から、コミュニケーション能力の高まり等、子供たちの「生きる力」を育てていく上で、学校内での指導のみならず、子供たちが地域で活動する場を設定したり、学校と地域が連携して活動を仕組んだりすることの必要性を感じている教員が多いのではないかと推測のもと、この推測が集計結果から裏付けできるのではないかと考えたことである。

【問3】を設定した意図は、他の教員と比較して地域に出ていく頻度が高く、地域の各種団体等の役員ではない地域住民との接点が多い教員だからこそ感じる学校と地域との連携の必要性を明らかにしたいと考えたことと、学校運営協議会等の公式の場ではない地域の人々との日常的なかかわりの中から感じている課題を浮かび上がらせることができるのではないかと考えたことである。

【問4】を設定した意図は、経験年数が少ない教員に割り振られやすい、休日に仕事が入る等の課題が明らかにできるのではないかと考えてのことである。

3. 調査の結果と分析

(1) 【問1】に対する回答の結果

【問1】「地域活動指導員として、地域の活動に参加する前と、現在では、教師としての心構えや行動・指導の仕方に、何か変化はありましたか？」に対して得られた回答を、表2のようにカテゴリ分けした。

表2 【問1】に対する回答の集計

カテゴリ		回答数 (校)	割合 (%)	
子供理解の深まりと指導の向上	学校以外での子供の姿を知ることができた	19	58.0	
	学校での子供の姿は一面でしかないと分かった	40		
	地域での活動に意識が向くようになった			8
	学校内での指導の構えや指導の仕方が変わった			15
地域との関係の強まり	地域の方や保護者とのかかわりが強くなった	10	24.6	
	地域の教育力を知った	17		
	地域あつての学校という意識をもつようになった			6
	地域の方の願いが分かった			1
その他	1	1.4		
変化なし	6	8.7		
無回答	9	13.0		
計	73	105.8		

一つ目として、「学校以外の場所でいきいきと活動する子供の姿を見ることができて、子供の学校での姿は一つの側面でしかないと分かった。」「地域活動指導員になる前は、学校の中での子供の様子しか見えていなかったが、地域活動指導員になって、地域の中での子供たちの様子を知ることができた。」のような回答は、「学校以外での子供の姿を知ることができた、学校での子供の姿は一面でしかないと分かった」とした。

二つ目として、「校内を中心に目を向けていたが、地域全体に目を向けるようになった。」「地域の行事に興味関心をもつようになりました。」のような回答は、「地域での活動に意識が向くようになった」とした。

三つ目として、「地域での子供のよい姿を学校でも広めていく必要があることが分かった。」「地域で活動することで得られる経験の大切さを具体的な場面で紹介しながら指導することができるようになった。」のような回答は、「学校内での指導の構えや指導の仕方が変わった」とした。

四つ目に、「地域の方の願いを知る機会が増え、一緒に頑張ろうという気持ちにつながった。」「地域の方と積極的に関わろうと声を多くかけるようになった。」のような回答は、「地域の方や保護者とのかかわりが強くなった」とした。

五つ目に、「地域あつての学校という意識が高まった。」「地域の方に子供たちが育てられているということを実感した。」のような回答は、「地域の教育力を知った、地域あつての学校という意

識をもつようになった」とした。

六つ目に、「どういうリーダーを育てたいのか、具体的に分かるようになった。」という回答は、「地域の方の願いが分かった」とした。

これら以外には、「変化なし」、「無回答」という回答もあり、「十分に指導員として活動できなくて申し訳ないです。」というような、問いに対する回答としては適当でない回答は「その他」とした。

また、「学校以外での子供の姿を知ることができた、学校での子供の姿は一面でしかないと分かった」、「地域での活動に意識が向くようになった」、「学校内での指導の構えや指導の仕方が変わった」の三つのカテゴリを合わせて「子供理解の深まりと指導の向上」、「地域の方や保護者とのかかわりが強くなった」、「地域の教育力を知った、地域あつての学校という意識をもつようになった」、「地域の方の願いが分かった」の三つのカテゴリを合わせて「地域との関係の強まり」のように、大きなカテゴリでもまとめた。

次に、カテゴリ分けされた回答が、回答者69名のうち、どれくらいの割合で回答されていたのか、記述・分析する。

大きくカテゴリ分けした「地域との関係の強まり」が17人(24.6%)であったのに対し、「子供理解の深まりと指導の向上」は40人(58.0%)と倍以上の集計結果が表れた。地域活動指導員という校務分掌を担当し、地域の活動に参加することを通して、子供を多面的に見られるようになり、学校内での指導の仕方が向上するという効果が表れるのではないかと考えられる。

(2) 【問2】に対する回答の結果とカテゴリ分け

【問2】「地域で子供たちが活動することや、地域の様々な年代の人々と関わることは、子供たちの人間形成にどのような影響があると思いますか？」に対して得られた回答を、表3のようにカテゴリ分けした。

表3 【問2】に対する回答の集計

カテゴリ		回答数 (校)	割合 (%)
子供の生きる力に資する経験の提供や力の育成	幅広い年代の人と関わる経験がもてる様々な経験ができる	19	65.2
	幅広い年代の人と関わる力や社会性が高まる	19	
	キャリア教育、自分の将来像作り	7	
自分も地域の一員であるという心情面での高まり	感謝する気持ちの高まり、心情面の安定・成長	15	49.3
	地域の一員という意識の高まり	19	
	地域への愛着の意識の高まり	8	
その他	1	1.4	
無回答	6	8.7	
計	94	136.2	

一つ目として、「いろいろな大人と関わることは、いろいろな経験ができるので良いと思います。」「様々な年代の人々と関わることで学校では得られない人間関係、体験が得られ、当人にとってよい影響があると思います。」のような回答は、「幅広い年代の人と関わる経験がもてる、様々な経験ができる」とした。

二つ目として、「いろいろな年代の人との関わりは、話の仕方や振る舞い方など、同年代とは違う関わり方を身に付けられると思います。」「自分の仲の良い子だけでなく、年下の子の面倒を見たり、年上の人と関わるスキルが身に付く。」のような回答は、「幅広い年代の人と関わる力や社会性が高まる」とした。

三つ目として、「自分より年下の子と触れ合ったり、お年寄りの方と触れ合ったりすることで、教師や保育士をめざしたいと思ったり、介護など福祉の仕事をめざしたいと思ったりするなど、

キャリア教育の一つになるかもしれない。」「社会見学で働く人たちと接することができることは、将来の職業を考えるいいチャンスになると思う。」のような回答は、「キャリア教育、自分の将来像作り」とした。

四つ目に、「礼儀、思いやり、協力など、人との関わりについての道徳的価値観を養うことができる。」「人と人とのつながりを体感できることは、心豊かな子供たちの育成に大きくかかわると思う。」のような回答は、「感謝する気持ちの高まり、心情面の安定・成長」とした。

五つ目に、「居場所が地域の中につくられる。」「共に生きていくという意識が根付いていくと思います。」のような回答は、「地域の一員という意識の高まり」とした。

六つ目に、「教えてもらう、ふれ合うことにより、思いやり、地域の大切さをより深く感じ、思うことができる。」「地域の中で生きることを実感し、ふるさとを愛し、ふるさとを大切にすることを育てる。」という回答は、「地域への愛着の意識の高まり」とした。

これら以外の回答は、問1の集計と同様、「無回答」もあった。

また、「言語環境がきたなくなると思います。きれいな言葉を使っていないのが、かなりネックです。」というような唯一マイナスの影響として出された回答は、「その他」とした。この回答は、地域に出た時に、学校内のように言葉遣いについて厳しく指導する大人がいないため、子供が汚い言葉を使ってしまう傾向があることや、地域の方の中にも汚い言葉を使う人がいて、その人からの悪影響を懸念する気持ちから出された回答であると推測できる。

さらに、「幅広い年代の人と関わる経験がもてる、様々な経験ができる」、「幅広い年代の人と関わる力や社会性が高まる」、「キャリア教育、自分の将来像作り」の三つのカテゴリを合わせて「子供の生きる力に資する経験の提供や力の育成」、「感謝する気持ちの高まり、心情面の安定・成長」、「地域の一員という意識の高まり」、「地域への愛着の意識の高まり」の三つのカテゴリを合わせて「自分も地域の一員であるという心情面での高まり」のように、大きなカテゴリでもまとめた。

次に、カテゴリ分けされた回答が、回答者69名のうち、どれくらいの割合で回答されていたのか、記述・分析していく。

大きくカテゴリ分けした「子供の生きる力に資する経験の提供や力の育成」は45人(65.2%)、「自分も地域の一員であるという心情面での高まり」は34人(49.3%)となった。

ここまで記してきた集計の結果から、大きくカテゴリ分けした「自分も地域の一員であるという心情面での高まり」が34人(49.3%)であったのに対し、「子供の生きる力に資する経験の提供や力の育成」は45人(65.2%)と大きく上回った。

この結果から、地域活動指導員を務めている教員が、地域で子供たちが活動することや、地域の様々な年代の人々と関わることによる子供たちの人間形成の影響として、地域に対する意識の変化よりも、子供たちの「生きる力」を高める上で影響があると捉える傾向があると考えられる。

(3) 【問3】に対する回答の結果とカテゴリ分け

【問3】「学校と地域が今まで以上に連携していく上で、どのような利点や課題があると思いますか？」に対して得られた回答を、表4のようにカテゴリ分けした。

一つ目として、「地域を知る。ボランティアの意味を感じる」「あたたかい地域になっていく。子供は宝だと言ってくれる地域の人々がたくさんみえる。地域に支えられて生活する、学習が深まることもある。そのことを実感することで地域を大切にしようになる」のような回答は、「子供が地域を知り、地域とつながり、地域を大切にする」とした。

二つ目として、「地域と一丸となって子供を育てることができる。」「地域と学校が子供たちの願う姿を共通のものとして指導していくことができる。」のような回答は、「学校と地域が目標を共有できる」とした。

三つ目として、「中学生の存在を地域の中でアピールできることが利点。」「地域が学校を支えるようになっていく。」のような回答は、「地域の学校教育や子供への理解が高まる」とした。

四つ目に、「子供のことが色々な面から分かるようになる。いいところが見つかる。」「子供たちも地域から学ぶ機会が多くなると考えることができます。また、子供たちの健全育成につながると思われます。」のような回答は、「子供の学力等の向上や健全育成、子供理解の高まり」とした。

表4 【問3】に対する回答の集計

カテゴリ		回答数 (校)	割合 (%)	
利点	子供が地域を知り、地域とつながり、地域を大切にする	7	39	10.1
	学校と地域が目標を共有できる	8		11.6
	地域の学校教育や子供への理解が高まる	7		10.1
	子供の学力等の向上や健全育成、子ども理解の高まり	14		20.3
	地域の(大人同士の)つながり作りに貢献、大人の意識の高まり	3		4.3
コミュニティ・スクールとの関わり(利点、課題ともに)		4	5.8	
課題	連携した活動をする上での配慮(マナー化、安全確保等)	7	44	10.1
	学校と地域の役割分担の難しさ、お互いに依存	9		13.0
	地域人材確保の難しさ	4		5.8
	学校と地域の共通理解や、話し合い時間確保等の難しさ	11		15.9
	休日の参加、多忙化、一部職員等への仕事の集中	10		14.5
	かかわりが薄いなど、地域内に問題がある	3		4.3
特になし		1	1.4	
無回答		13	18.8	
計		101	146.4	

五つ目に、「防災訓練等、地域行事にも学校が参加することで、大人同士のつながりもでき、情報交換の場が増えてよい。」「地域の大人が励みになり、活性化を図ることができる。災害に見舞われることがあっても地域で乗り越えていこうとしていけるだろう。」のような回答は、「地域の(大人同士の)つながり作りに貢献、大人の意識の高まり」とした。

六つ目に、「コミュニティ・スクールになったおかげで、連携しやすくなる。」「学校と地域の連携は今後も深めていく必要があると思います。コミュニティ・スクールを進める上でも、一人でも多くの方が、学校の応援団になってもらえるとよいです。」という回答は、「コミュニティ・スクールとの関わり(利点、課題ともに)」とした。

七つ目として、「情報交換をする場や機会がなかなか難しいので、その中でどのように連携していくのかを考えていく必要があると感じます。」「活動が毎年パターン化しているところがある。子供・地域のための活動になるよう、意義を考えて計画を立てていくことが必要ではないかと考えている。」のような回答は、「連携した活動をする上での配慮(マナー化、安全確保等)」とした。

八つ目として、「学校と地域がより連携していけるようにしていく。」「なんでも学校のせいになってしまふので困る。地域の方と共に子供を見守っていけるとよいのだが・・・。」のような回答は、「学校と地域の役割分担の難しさ、お互いに依存」とした。

九つ目として、「楽しく活動できるものばかりなので、地域の方々が負担に思わず、気軽に参加したり、活動したりできるようになってほしいと思います。」「人材発見の難しさと時間にも難しさがあると思います。」のような回答は、「地域人材確保の難しさ」とした。

十として、「連携をとる時間が限られており、短い時間で仲良くなるのは少し難しく感じます。」「地域の方と教員との役割と関わり方。お互いに遠慮がある。過度な負担にならない程度で、連携していくには、互いに寄り添える場があると良い感じでした。」のような回答は、「学校と地域の共通理解や、話し合い時間確保等の難しさ」とした。

十一として、「地域の行事に参加するには、土日が多い。生徒だけで参加できないので、勤務時間や休日のきりかえが難しくなると思います(教職員の参加が難しい)。」「教員が参加(地域の行事)した場合、代休を取れるようにすれば参加率が増えるのではないのでしょうか。ボランティアとして参加するのが本当かもしれませんが、気持ちの持ちようでは？」のような回答は、「休日の参加、多忙化、一部職員等への仕事の集中」とした。

十二として、「地域とのつながり方。中学校区としては二つの小学校区同士の自治会のつながりが大切であるが、ライバル意識があるのか、つながりが薄い。」「それぞれの地域力によって連携の結びつきの深まり方がかわってくる。」のような回答は、「かかわりが薄いなど、地域内に問題がある」とした。

これら以外の回答には、「無回答」、「特になし」もあった。

さらに、「子供が地域を知り、地域とつながり、地域を大切にできる」、「学校と地域が目標を共有できる」、「地域の学校教育や子供への理解が高まる」、「子供の学力等の向上や健全育成、子供理解の高まり」、「地域の（大人同士の）つながり作りに貢献、大人の意識の高まり」の五つのカテゴリを合わせて「利点」、「連携した活動をする上での配慮（マナー化、安全確保等）」、「学校と地域の役割分担の難しさ、お互いに依存」、「地域人材確保の難しさ」、「学校と地域の共通理解や、話し合い時間確保等の難しさ」、「休日の参加、多忙化、一部職員等への仕事の集中」、「かかわりが薄いなど、地域内に問題がある」の六つのカテゴリを合わせて「課題」のように、大きなカテゴリでもまとめた。

次に、カテゴリ分けされた回答が、回答者69名のうち、どれくらいの割合で回答されていたのか、記述・分析していく。

「子供が地域を知り、地域とつながり、地域を大切にできる」は7人(10.1%)、「学校と地域が目標を共有できる」は8人(11.6%)、「地域の学校教育や子供への理解が高まる」は7人(10.1%)、「子供の学力等の向上や健全育成、子供理解の高まり」は14人(20.3%)、「地域の（大人同士の）つながり作りに貢献、大人の意識の高まり」は3人(4.3%)、「コミュニティ・スクールとの関わり（利点、課題ともに）」は4人(5.8%)、「連携した活動をする上での配慮（マナー化、安全確保等）」は7人(10.1%)、「学校と地域の役割分担の難しさ、お互いに依存」は9人(13.0%)、「地域人材確保の難しさ」は4人(5.8%)、「学校と地域の共通理解や、話し合い時間確保等の難しさ」は11人(15.9%)、「休日の参加、多忙化、一部職員等への仕事の集中」は10人(14.5%)、「かかわりが薄いなど、地域内に問題がある」は3人(4.3%)、「無回答」は13人(18.8%)、「特になし」は1人(1.4%)となった。大きくカテゴリ分けした「利点」は39人(56.5%)、「課題」は44人(63.8%)となった。

ここまで記してきた集計の結果から、大きくカテゴリ分けした「利点」に関する回答が39人(56.5%)であったのに対し、「課題」に関する回答の方が44人(63.8%)と上回った。「利点」に関する回答の中でも、「子供の学力等の向上や健全育成、子供理解の高まり」は14人(20.3%)と最も多かった。一方、「課題」に関する回答の中では、「学校と地域の共通理解や、話し合い時間確保等の難しさ」11人(15.9%)、「休日の参加、多忙化、一部職員等への仕事の集中」10人(14.5%)、「学校と地域の役割分担の難しさ、お互いに依存」9人(13.0%)が多かった。また、「無回答」が13人(18.8%)と多かったことも特徴である。

(4) 【問4】に対する回答の結果とカテゴリ分け

【問4】「地域活動指導員としての仕事をしていく上で、課題に感じていることや困っていることを、率直にお書きください。」に対して得られた回答を、表5のようにカテゴリ分けした。

一つ目として、「互いにもう少しやってくれてもいいと思うことがあっても、地域と学校で話し合いの場が持ちにくいことです。」「インリーダー担当の保護者が交代すると業務を丸投げされたことがあった。」のような回答は、「地域の方との密な連絡、連携」とした。

二つ目として、「学校外での児童の様子を通して、落ち着かない姿が多々見られます。その際、教師として学校と同じように指導すべきか、そばで見守るべきか悩んでいます。」「何をどこまで指導してよいのかが、はっきりと分からない。子供も何のために先生がいるのか理解していないと思う。指導部長、委員、教員、それぞれ、はっきりとした仕事（分担）があると、お互いにやりやすいです。」のような回答は、「教師がどこまで介入するか」とした。

三つ目として、「役員さん方の責任感を強く感じ、感謝の気持ちで一杯です。もう少し、子供たちが動けるように子供たちを動かすように考えていただけるとさらに楽に、安心して、喜びを感じてやっていただけることと思います。」「ボランティア行事は、教育的な意味づけ、これを主催する側も理解して活動させてほしい。祭り等、労働力としてのとらえだけ、さらには、来てくれ

表5 【問4】に対する回答の集計

カテゴリ		回答数 (校)	割合 (%)	
教師と地域住民の連携や方針の調整	地域の方との密な連絡、連携	8	17	11.6
	教師がどこまで介入するか	6		8.7
	地域の方や保護者の姿勢や教育的配慮	3		20.3
時間的・経済的等の負担感	日常の業務や部活動との両立	14	29	20.3
	休みが少なくなる	4		5.6
	負担感、多忙感	9		13.0
	公務としての位置づけ	2		2.9
校内の位置づけや管理職の姿勢等	不安感（地域を知らない、仕事分からない）	5	10	7.2
	管理職の任命	1		1.4
	校内での認知度の低さ、他の教員との協力	3		4.3
	その他（学校間の温度差）	1		1.4
子供への指導や評価への意欲	子供と地域の関わり方の少なさ	2	5	2.9
	地域で活躍する子供への学校での適切な評価	3		4.3
	特になし	4		5.8
	無回答	17		24.6
	計	82		118.8

たからごほうびを・・・という、日本のボランティアの発想だろうが、時として、悪しき状況をつくり出す場合もある。」のような回答は、「地域の方や保護者の姿勢や教育的配慮」とした。

四つ目として、「日常の指導に追われ、必要最小限のことしかできない。」「土日の活動に参加できないことが多く、地域の方におまかせしている部分が多い。」のような回答は、「日常の業務や部活動との両立」とした。

五つ目に、「成績等で忙しい時期もあり、休みが確保されないのを負担に感じることがあります。」「夜や土日など、勤務時間以外での活動ばかりであり、負担感がある。」のような回答は、「休みが少なくなる」とした。

六つ目に、「教員の多忙化が進む。」「学校での多忙な仕事に加えての仕事で、どうしても負担を感じます。」のような回答は、「負担感、多忙感」とした。

七つ目に、「同じ中学校区でも、土曜出勤の際（ブロックフェスティバル）等、代休になる学校と、そうでない学校がある。できれば統一してほしいと思う。同じ場所へ参加している時は、特にそう感じます。」「勤務時間外での活動に対して、交通費等の経費が全くないこと。つまり公務としての位置づけがない。」という回答は、「公務としての位置づけ」とした。

八つ目として、「異動した先ですぐ担当になったので、地域の現状を全く知らない状態で関わっていかねばならないのが不安である。」「校内に担当が一人なので相談する人がいない。前年度の担当者にたずねても『わからないまま1年が過ぎた』という返事しか返ってこない。転勤した年に担当になっても、だれがだれか全くわからないだけでなく、どんな組織があるかもわかっていないので、不安ばかりで終わってしまう。」のような回答は、「不安感（地域を知らない、仕事分からない）」とした。

九つ目として、「地域や学校を動かしていくためにも、この職は、管理職あるいはベテランの先生が担うべきで『若い人で時間がある人に』という発想はやめた方がいいですね。」のような回答は、「管理職の任命」とした。

十として、「児童の取り組みの様子や研修会等で学んだことを他の職員にどのような形でどのように広めていくとよいのか（職員会、打ち合わせ等では限界があるので。）」、「地域活動指導員という仕事は、学校においては、大きく認められていない。HPや自分の文書の中でアピールしていく必要がある。」のような回答は、「校内での認知度の低さ、他の教員との協力」とした。

十一として、「本校では生徒指導が地域活動と多くかかわっている面があり、それほど地域活動に参加していないのが実情です。生徒会活動として地域ともう少し関わることができればよいと感じています。」「協力する生徒をいかに増やすか、興味をもってもらうか、考えたいです。」のような回答は、「子供と地域の関わりが少ない」とした。

十二として、「子供たちのふだんの学校生活では見られない姿を広める機会が少ないので知りたい（壁新聞や朝会などで広められると思うが、もっと他の方法を知りたい。）」「子供の活動を広めたい。」のような回答は、「地域で活躍する子供への学校での適切な評価」とした。

これら以外の回答には、「その他（学校間の温度差）」、「無回答」、「特になし」があった。

さらに、「地域の方との密な連絡、連携」「教師がどこまで介入するか」「地域の方や保護者の姿勢や教育的配慮」の三つのカテゴリを合わせて「教師と地域住民の連携や方針の調整」、「日常の業務や部活動との両立」「休みが少なくなる」「負担感、多忙感」「公務としての位置づけ」の四つのカテゴリを合わせて「時間的・経済的等の負担感」、「不安感（地域を知らない、仕事分からない）」「管理職の任命」「校内での認知度の低さ、他の教員との協力」「その他（学校間の温度差）」の四つのカテゴリを合わせて「校内の位置づけや管理職の姿勢等」、「子供と地域の関わりが少ない」「地域で活躍する子供への学校での適切な評価」の二つのカテゴリを合わせて「子供への指導や評価への意欲」ように、大きなカテゴリでもまとめた。

次に、カテゴリ分けされた回答が、回答者69名のうち、どれくらいの割合で回答されていたのか、記述・分析していく。

大きくカテゴリ分けした「教師と地域住民の連携や方針の調整」は17人（24.6%）、「時間的・経済的等の負担感」は29人（42.0%）、「校内の位置付けや管理職の姿勢等」は10人（14.5%）、「子供への指導や評価への意欲」は5人（7.2%）となった。

ここまで記してきた集計の結果から、大きくカテゴリ分けした「時間的・経済的等の負担感」に関する回答が29人（42.0%）と多く、次いで「教師と地域住民の連携や方針の調整」が17人（24.6%）と多かった。また、「無回答」が17人（24.6%）と多かったことも特徴である。

4. アンケート調査のまとめ

本調査では、岐阜市「地域活動指導員」を務める教師が、その役職として活動を進めていく中で、学校と地域の連携に対する意識の変化や地域において子供たちが活動することに対する捉え、活動をしていく上での課題などを調査した。

【問1】の集計結果からは、地域活動指導員という校務分掌を担当し、地域の活動に参加することを通して、子供を多面的に見られるようになり、学校内での指導の仕方に効果が表れるのではないかと推測できた。

【問2】の集計結果からは、地域活動指導員を務めている教師が、地域で子供たちが活動することや、地域の様々な年代の人々に関わることによる子供たちの人間形成の影響として、地域に対する意識の変化よりも、子供たちの「生きる力」を高める上で影響があると捉える傾向があることが考えられた。

【問3】の集計結果からは、「利点」に関する回答よりも、「課題」に関する回答の方が多かった。学校と地域が連携していくことを難しいと捉えている教師の意識が浮き彫りとなった。

【問4】の集計結果からは、多くの課題が浮かび上がってきた。例えば、教師が地域活動にどこまで介入するべきか、日常の業務との両立、休日出勤による負担、校内での認知度の低さなどである。

今後は、校種・性別・経験年数・年齢・担任かどうかといった属性とのクロス集計の結果についても分析することで、さらに、岐阜市「地域活動指導員」の活動の実態を明らかにしながら、学校と地域の互惠関係を構築する連携の在り方を探り、その役職の課題や可能性について今後の提案につなげていきたいと考える。他日を期したい。

注)

1) 松田雅裕, 益川浩一 (2018). 学校と地域との連携についての学校管理職の意識. 地域志向学研究, 2, p. 7.

2) 同上.